

平成27年度 京都府立南陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>校是の「進取」「敬愛」「雄健」の具現化を図り、質の高い教育を推進する。</p> <p>1 自ら学ぶ姿勢を有し、グローバル社会において、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>2 特別活動等の工夫により、知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。</p> <p>3 地域に信頼される進学校として絶えず見直しや改善を行い、学力を向上させ、希望する進路の実現を図る。</p> <p>4 学校、地域、家庭の協働により、規律ある生活態度と社会の一員としての自覚を有する生徒を育成する。</p> <p>5 学研都市の人的・物的資源の活用し、特色ある学校づくりを進める。</p>	<p>1 生徒一人ひとりが目的意識を持って進学、就職を果たすことができたが、3年間の進路指導の体系化が十分図られていないことが課題である。</p> <p>2 各教員は授業の創意工夫をし、授業改善を図ることができたが、新学習指導要領の趣旨に即した双方向の授業の実践が十分できていないことが課題である。</p> <p>3 学校行事等では自発的な活動が展開され、生徒に自己存在感を持たせる機会を創出することができたが、質の向上を果たすことが課題である。遅刻生徒は減少し、概ね基本的な生活習慣の確立が図れたが、さらに規範意識の醸成を図ることが課題である。</p> <p>4 組織的・計画的な広報活動が実施できたが、山城地域全体に本校の魅力を十分伝えられていない点が課題である。</p> <p>5 保護者や学校評議員の意見を求め、計画的に自己評価を行い課題を見つけることができた。学校評議員会からの提言などを具体化し、実践することが課題である。</p>	<p>1 生徒に目標を高く設定させ、探究的な学習を促す。学ぶ意欲を引き出しながら学力の向上を図るとともに、組織的な教科指導の体制を確立し、教員は尚一層、教科指導力を向上させる。</p> <p>2 規範意識を醸成し、他人を思いやる心を育み、集団の力を高める。併せて、公民的資質の向上を図る活動の実践に努める。</p> <p>3 学研都市地域・保護者・卒業生・小中学校と連携し、学校の魅力推進を図る。創意工夫のもと学校全体の企画力の向上を図る。</p> <p>4 「4つの奨励」(部活動、ボランティア、国際交流、コンテスト)を通して、生徒の主体的な活動をさらに促す。</p> <p>5 学校評価、保護者評価、生徒評価、教職員評価等を活用しながら、本校教育の成果と課題を公開する。</p>

評価領域 (分掌・教科 領域)	重点目標	具体的方策	評価				中間評価時：改善策（進捗状況と課題） 総合評価時：改善策（成果と課題）
			中間		総合		
			各項	総合	各項	総合	
教務部	学力向上の観点で踏まえた特色ある教育課程を編成する。	サイエンスリサーチ科の教育課程について継続的に検討する。 1, 2年生のクラス編成に対応する教育課程の再検討を行う。 授業時間の確保に努める。					
	教科指導力の向上。	授業アンケートの有効な活用方法を検討する。 学習指導要領の趣旨に即した双方向授業の拡大。 授業改善を目指し、授業の公開機会を増やす。 シラバスの有効活用を再検討する。					
	3年間を見通した授業計画の立案による学習意欲の向上。	本校の学習や授業について、地域・保護者・生徒にわかりやすい説明を行う。					
生徒指導部	特色ある部活動・学校行事活動を展開し、本校の魅力を外部に発信する。	3年生参加型文化祭次年度開催に向け、生徒会本部役員も構成員とする討議委員会を発足し、計画的に準備を進める。 部活動・学校行事を充実させ、その姿を外部に公開することで、本校の魅力を発信する。 生徒会・部活動によるボランティア活動の外部連携を進める。					
	生徒の倫理観や規範意識を醸成するとともに、問題行動等が未然に防止する。	日常の通学指導、交通安全教室及びPTAと連携した交通安全視察等の計画的に実施する。 生徒の防犯意識（自己管理能力）を高めるとともに、教員による校内巡回、更衣室等の施設及び警察との連携による防犯活動を実施する。 日常の指導及び非行防止教室（情報モラル教育）の内容を充実させ、ネット犯罪及びいじめ行為を防止する。					
	いじめの未然防止及び早期発見・解決に努める。	いじめの未然防止を目的にした校内研修会を実施する。 いじめ調査や教育相談の実施等により、生徒がいじめ事象を訴えやすい体制を整える。 いじめ対策委員会による組織的対応力の強化。					
人権教育係	生徒一人一人の人権が守られる環境をつくる。	学校生活全般において、集団生活におけるルールを理解し遵守させ、お互いを思いやる心を育む。					
	生徒が身近に感じられ、日常及び将来の生活に結びつく人権学習を行う。	人権学習事前に人権ニュースを発行し、導入に役立てる。 感想文に目を通し、成果や課題、生徒の状況把握を行う。 三学年とも共通アンケートを実施し分析をする。					
	生活支援を充実する。	中学校、担任との連携を強化し、生徒の状況を的確に把握する。 各種奨学金制度等の案内・手続きを行う。					

評価領域 (分掌・教科 領域)	重点目標	具体的方策	評価				中間評価時：改善策（進捗状況と課題） 総合評価時：改善策（成果と課題）
			中間		総合		
			各項	総合	各項	総合	
進路指導部	学力の向上。	学習習慣の確立を最優先課題とし、特に高校入学時の初期指導に教職員全体で取り組む体制を確立する。					
		進路情報会議による教科指導へのフィードバック力を強化する。					
		各教科・学年と連携して進学講習や学習合宿の内容を充実させ、生徒の学力向上を保障するための仕組みを強化する。					
	進路意識の高揚。	進路HRや各種ガイダンスを活性化し、広い視野で自らの進路選択ができる素養を培う。					
		あらゆる教育活動をキャリア教育の機会として位置づけ、生徒の自立を促すとともに将来に目を向けるきっかけを作る。					
		進路情報通信等を利用して、タイムリーに情報提供を行うとともに、3年間を見据えた体系的な進路行事に取り組んで生徒に高い目標を持たせる。					
	進路希望の実現。	生徒一人ひとりが自らの適性と可能性を最大限に生かした進路実現を果たせるよう、進路検討会の機能を充実させる。					
		諸検査（スタディ・サポート、模擬試験等）のデータを多角的・客観的に分析・活用して、個に応じた的確な進路指導を行う。					
		難関大学合格に向けた指導を充実させることを目標に、入学から卒業までの3年間を見据えた中での指導体系を研究・展開する。					
保健部	ヘルスプロモーション実現に向けた支援環境づくりを充実させる。	健康課題の早期発見・早期対応に向けた、健康診断や日常の健康観察を充実させる。					
		多様化する健康課題に対する情報収集・提供を図り、生徒委員会の活動や健康教育・教職員研修会を充実させる。					
		生徒並びに教職員の救命救急意識のいっそうの高揚を図ることのできる普通救命講習・救急処置研修会を実施する。					
	個々の生徒の特性を理解し、適切な指導や効果的な支援体制の確立する。	怪我や不調等に対する迅速で適正な対応。					
		学年や家庭、関係機関等との連携を密にするとともに、学校適応指導会議等を充実させる。					
		ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた学習環境づくりを啓発する。					
	学習環境に対する意識を高め、安全教育・環境教育の推進する。	日々の清掃活動を充実させるとともに生徒委員会活動等による生徒・教職員の美化意識向上。					
		生徒委員会活動やボランティア活動等環境教育の充実。					
		事故災害の状況把握に努め、何が原因で事故が発生したのかを分析し、未然に防げる体制を取っていく。					

評価領域 (分掌・教科 領域)	重点目標	具 体 的 方 策	評価				中間評価時：改善策（進捗状況と課題） 総合評価時：改善策（成果と課題）
			中間		総合		
			各項	総合	各項	総合	
図書部	図書館利用者層の拡大に取り組み、6割以上の生徒に卒業までに一冊は本を借りさせる。	教科・部局と連携してイベントを実施する。 しおり、読書カードを導入し、昼食会場としてテラスを提供する。 教職員向け情報を発信する。					
	図書委員会活動の活発化。	イベントを通して企画・運営を経験させる。 図書ボランティアを募り、自主的に図書館に関わる生徒を育てる。					
	視聴覚機器利用の利便性の向上。	利用者・事務部等と連携し、視聴覚機器が利用しやすい環境を整える。					
企画研究部	本校を第一志望とする中学生を増やす。	在校生を前面に出したオープンキャンパスを企画・運営する。 学校広報の方向性や具体的な内容を取りまとめ、分掌外の広報担当者等にも周知し、広報の全体化につなげる。 個別相談会に学校紹介の要素を加え付加価値を高めることで、受験校決定直前の中学生や保護者の支持を獲得する。					
	「どの教員でも南陽高校の魅力を発信できるメディア」について研究・開発する。	学校ホームページの管理体制を見直し、更新回数を増加させる。 紙媒体の広報（学校案内・ポスター・南陽NEWS）のデザイン・内容を刷新し、説明会等の集客力を高める。 学校紹介のDVD・パワーポイントを作成し、学校説明会・個別相談会で活用する。					
	外部連携を活性化させ、生徒の知的好奇心を刺激する。	留学や在留外国人との交流についてのイベントを企画・運営し、生徒の海外に対する興味や関心を育てる。 学研都市を中心とした地域連携事業の開発を行い、分掌・教科横断的な計画を立案する。					
学年部	規律ある生活態度と社会の一員としての自覚を持った生徒を育てる。	生徒の自覚に働きかけ、高校生らしい生活規範を身につけさせる。 家庭との連携を密にして、生徒の状況を把握する。					
	生徒の主体的な学習意欲と学力の向上。	初期指導において、ベル着の励行や予習・復習も含めた授業を活用する姿勢を確立させる。 生活記録を活用し、個々の生徒の課題を把握した指導を行う。 課題の全体量を調整し、主体的な学習スタイルへの転換を図る。					
	個々の生徒の進路希望実現。	個々の生徒に応じた指導を目指し、面談の機会・内容を充実させる。 土曜学習・講習・難関大講座等の内容充実に向け、学年部が主体となり調整を行う。					

評価領域 (分掌・教科 領域)	重点目標	具体的方策	評価				中間評価時：改善策（進捗状況と課題） 総合評価時：改善策（成果と課題）
			中間		総合		
			各項目	総合	各項目	総合	
サイエンスリ サーチ科	探究活動をととして、科学的手法や思考力・判断力・表現力を身につけさせる。	探究活動の基礎となる、ワープロ・表計算・パワーポイントなど情報処理技能と科学的手法を学ぶ実習を実施する。 夏季実習プログラムをポスターにまとめて発表する場を設定して、探究の手法の更なる工夫などについてディスカッションさせ、互いに評価させる。 設定した課題について探究活動を行うサイエンスⅡに向けて、各教科で実施可能な内容・テーマを開発する。					
	積極的に外部との交流の場に参加させ、刺激を受けさせる。	京都サイエンスフェスタにおいて、ポスターセッションやプレゼンテーションで発表させる。 教科指導の中で挑戦することの意義を理解させて、京都数学グランプリや京都物理グランプリ、英語スピーチコンテストなど各種コンテストに参加させる。 地域と連携して高校生が主体となって取り組む活動を企画する。					
	世界を身近に感じさせ、異文化理解や国際理解を深めさせる。	オーストラリアの海外研修旅行で、現地高校生との交流活動を実施する。 スカイプを利用して海外連携校の高校生と継続的な交流を実施する。					
事務部	学校の魅力推進に繋がる予算執行。	各分掌教科からのヒアリングを行い、費用対効果を考慮しながらも、生徒の学ぶ意欲を引き出すことのできるような教材、教具の充実に向けた予算執行を行う。 高校教育課所管事業を最大限活用することで、学研都市の人的・物的資源の活用を図る。 更なる広報活動の展開に向けた予算確保を目指す。					
	生徒の学力向上、意欲向上に繋がる安心安全で快適な教育環境づくり。	老朽化の著しい教室壁の塗り替えを行うとともに、今年度以降年次計画的に教室床の樹脂塗装を行う。 光熱水費の節減に努めながらも、適切な冷暖房管理を行い、快適な学習環境を維持する。 定期的に施設点検を実施し、危険箇所を早期発見し、計画的修繕に努める。					
	事務室業務の充実。	事務便りの月1回以上の定期的な発行により、事務室業務の発信に努める。 親切で爽やかな対応を心がけるとともに、窓口に来る生徒に対しては、規律や言葉遣いなどの指導も併せて行う。					

評価領域 (分掌・教科 領域)	重点目標	具体的方策	評価				中間評価時：改善策（進捗状況と課題） 総合評価時：改善策（成果と課題）
			中間		総合		
			各 項	総 合	各 項	総 合	
国語科	3年間を通じた国語力育成の基盤となる一年生の初期指導（特に古典分野）を充実させる。	予習復習の方法、各学習段階における必須習得事項等について、教員間で共通認識を持ち、きめ細やかな指導を行う。 過回授業の復習や古典単語、漢字、文法といった小テストを効果的に用い、学習習慣の確立と知識の定着を図る。 定期考査における共通問題等を用いて、学年全体として到達すべき目標を示し、指導にあたる。					
	読書習慣を定着させる。	視野を広げ、主体的に考える態度を養うべく、推薦図書リスト「南陽高校の100冊」を作成する。 授業や休業中の課題を通じて、各分掌・教科と連携しながら、読書及び図書館利用を啓発する。					
	教科としての指導力向上。	教務部主管の研究授業以外に、テーマに基づく研究授業や授業公開を行う。 教科会議を活性化し、意見交流の場を充実させ、授業や受験に向けた教科指導に関する教員間の情報交換を密にする。 難関校を中心に、学期毎に取り扱う大学を変えて入試問題を研究し、年度末の二次指導につなげる。					
地歴・公民科	新入試を見据えた学習指導を充実させる。	サイエンスリサーチ科における探究型授業の指導方法について研究する。 各教科において、レポートの作成や調べ学習を積極的に取り入れ、思考・判断力を高めるとともに、言語活動を充実させることで、表現力を育成する。 レポートや発表などの評価方法を見直し、生徒の表現活動を適切に評価する方法を研究する。					
	大学入試センター試験、難関大学の試験への対応を充実させ、生徒に達成感を感じさせる授業を展開する。	担当者間の連絡を密に取り、教材や指導方法、生徒情報の交換を行う。 難関大学の入試問題や、出題傾向などを研究し、現状に見合った適切な指導方法について検討する。					
数学科	数学的活動を通して、数学に対する興味・関心を深め、数学的な思考力・判断力・表現力を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを活用する態度を育成する。	予習や復習など家庭で取り組むべき内容を明確に指示するとともに、ノート点検等を通して一人ひとりの生徒に寄り添った指導を行う。 授業と学習合宿・土曜学習会等を有機的に関連させ、年間を見通した指導を計画し実施する。 数学的活動や言語活動を重視した授業を目指し、積極的に授業改善に取り組む。					
	科学的思考力や探求能力を育成するため、教材開発や教科指導力の更なる向上を図る。	定期試験や模擬試験等の成績資料を分析し課題を把握するとともに、大学入試問題の傾向を踏まえ学習内容の精選を図る。 「サイエンス講座」と日常の授業との関連を持たせる。 「課題学習」で用いる教材の研究・開発に努め、実施する。					

評価領域 (分掌・教科 領域)	重点目標	具体的方策	評価				中間評価時：改善策（進捗状況と課題） 総合評価時：改善策（成果と課題）
			中間		総合		
			各項	総合	各項	総合	
理科	生徒の進路実現に向けた学力の養成。	分かりやすい授業を心がけるとともに、自然の事物・現象に対する生徒の関心や探究心を高める工夫をする。 適切な時期に問題集や課題に取り組み、反復学習により、基礎基本事項を習得させる。 難関大学の入試にも対応できる生徒層を増加させられるよう授業や講習での指導方法を工夫する。					
	科学的なものの見方を養い、自然を探究する手法を学ばせる。	実験・実習・観察の時間をできるだけとり、現象を科学的に探究する方法・技能・態度を身につけさせる。 レポートの作成やプレゼンテーションなどの活動を通して、言語活動を充実させ、情報発信の能力を伸ばす。 探究的・問題解決的なサイエンスプログラムの内容の開発・計画・実施を行う。					
	よりよい授業に向けて教材開発・研究を行う。	研究授業や互見授業週間、研修会等を通して、教授方法などを研究する。 新学習指導要領の実施から3年が経過したことを踏まえ、高校の3年間を見通した教科指導のあり方について考える。 科学技術のもたらした功罪について考えさせたり、誤った知識による差別や偏見をしないような指導をし、科学的な倫理観を育成する。					
保健体育科	公正・協力・責任等に対する意識を高める。	運動を通して、社会性や協調性を身に付けさせる。 集団の規律を重んじ、何事にも前向きに取り組む態度を育てる。 リーダーシップ、フォロアーシップの育成についての指導法を研究する。					
	卒業後も継続して運動を行う資質や能力を育成する。	運動を科学的に捉える習慣を身に付けさせる。 体力等の状況を知り、課題を見つけられるようにする。 運動の楽しさを理解させる。					
	健康や安全に対する意識を高める。	健康に対する知識を十分に学ばせ、意識を高める。 環境問題に対する意識を高め、自ら考えて行動できるようにする。 運動時の安全に対する意識を高め、楽しく安全に運動が出来るようにする。					

評価領域 (分掌・教科 領域)	重点目標	具体的方策	評価				中間評価時：改善策（進捗状況と課題） 総合評価時：改善策（成果と課題）
			中間		総合		
			各項	総合	各項	総合	
芸術科	一般教養としての芸術の基礎・基本を把握させ、芸術を追究する態度を育てる。	中学校との関連をふまえ、表現や鑑賞の基礎・基本的事項をしっかりと把握させる。					
		鑑賞や制作・発表を通して、幅広い芸術の表現方法について理解を深め、芸術を追究する態度を育てる。					
		表現や鑑賞の学習を通して、多様な芸術についての見方・考え方・とらえ方（思考力・判断力・表現力）を学び、芸術を愛好する心情を育てる。					
芸術科	基本的な表現技法、演奏技能を育てる。	基礎・基本的内容の整理と多様な表現について研究し、技能を育てる方法について研究を深める。					
		日本の伝統的な芸術と西洋の伝統的な芸術の類似点や相違点を感じ、自ら表現することができる力を養う。					
		言語活動の拡充を図り、自らの言葉で諸芸術を批評できる心情を育てる。					
芸術科	よりよい授業に向けて教材開発・研究を行う。	研究授業や互見授業週間、研修会等を通して、教授方法などを研究する。					
		多角的視野に立脚したアプローチで学習者の知的好奇心に迫る授業を開発する。					
		多様な芸術について理解を深めさせるための鑑賞教材を研究する。					
英語科	全ての生徒の基礎学力の定着と、個々の生徒の希望進路実現に向けた学力の伸長。	日々の授業と、それに対する家庭学習において、生徒の自発的な学習を促し、学習内容を確実に定着させる。					
		希望進路の実現のため、進学講習、土曜学習会、学習合宿等の目的を明確にし、計画的・効果的に実施する。					
		模擬試験・定期考査等の学力資料を分析し、クラス全体および個々の生徒の状況を把握しながら授業を工夫していく。					
英語科	実践的コミュニケーション能力育成のための指導方法の工夫・改善。	3年間を通して、各科目で「読む・書く・聞く・話す」の四技能を計画的に組み合わせて指導する。					
		授業を通して生徒一人一人の人權意識の向上。					
		特に英文読解の授業において様々なトピックを扱うことにより、世界で起こっている諸問題について考えさせる。					
家庭科	自立した生活を送る経営者を目指し、「生活的自立のきざし」が見える取り組みを行う。	「自立」と「共生」、「環境」をテーマに具体的な取り組みを行う。					
		実践的・体験的な学習を通して、知識と技術の定着を行う。					
		外部(地域)と連携した学習の機会を大切にする。					
家庭科	自ら学ぶ姿勢を育成し、学習の成果を家庭生活にフィードバックさせる。	わかりやすく親しみやすい教材を提供する。					
		達成感や充実感が持て、次に繋がる授業展開をする。					
		家庭との協力による復習の機会や年間を通じた継続的な取り組みを行う。					
家庭科	授業改善や教材開発を行い、資質の向上を目指す。	新学習指導要領施行を振り返り、さらに充実した教科指導を行う。					
		他教科や近隣校の実践を参考に、客観性を持った授業を行う。					
		研修の機会を大切にする。					

評価領域 (分掌・教科 領域)	重点目標	具体的方策	評価				中間評価時：改善策（進捗状況と課題） 総合評価時：改善策（成果と課題）
			中間		総合		
			各 項	総 合	各 項	総 合	
情報科	情報活用の実践力と情報の科学的な理解力双方の養成を図り、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。	情報の科学的理解と、情報の収集、分析、活用、発信等の実習を通して、問題の発見とその解決の方法を習得する。					
		プレゼンテーション実習等を通じてコミュニケーション能力を養う。					
		将来、必要と予想されるコンピュータリテラシーを習得させる。					
情報社会に積極的かつ公正に参画する態度を育てる。	ネット上の犯罪事例をできるだけ多くあげ、情報社会で加害者にも被害者にもならないためにはどのようなことに気をつけるべきか考えさせる。	身の周りの著作物や著作権侵害の事例を最近の視聴覚教材や新聞記事を通して紹介し、著作権保護の重要性について理解させる。					
		情報に関する最先端の内容の研究と指導法の研修を継続的に、各種専門書、大学、研究施設等で行う。					
教員の指導力の向上。							